

東京女子医科大学学会

2025 年評議員会および第 91 回総会報告

開催方法：WEB 表決方式

表決期間：2025 年 9 月 5 日（金）～ 2025 年 9 月 25 日（木）

集計・議決日：2025 年 9 月 26 日（金）

会員総数（正会員／名誉会員）：662 名

表決権行使者数：66 名

投票率：9.97% ※未回答は承認とみなした

議題および議決結果：

【議題 1】庶務報告承認の件 承認 66 名（662 名）、非承認 0 名、結果 承認

【議題 2】2024 年度決算報告承認の件 承認 66 名（662 名）、非承認 0 名、結果 承認

【議題 3】2025 年度予算案承認の件 承認 66 名（662 名）、非承認 0 名、結果 承認

質問と回答：

（質問）議題 1 に関して、会員 120 名減少の理由は、助教以上の退職を意味するのか。

（回答）ご指摘のとおり、会員数の減少は法人退職者数の影響を強く受ける傾向にあります。今回の会員減少数には、2 年会費未納による自然退会扱い者（内規第 2 条）が相当数含まれております。多くの会員が連絡先として法人メールアドレスを登録しているため、退職により連絡が途絶えるケースが多く見受けられます。今後は、可能な範囲で、私的メールアドレスの登録を促すなど、会員との連絡体制の改善に努めてまいります。

2025 年 9 月 4 日（木）の評議員会の決定に基づき、WEB 表決方式を採用した結果、すべての議題について承認されたことを報告する。

【議題 1】庶務報告（2024 年 1～12 月）

1. 会員数（2025 年 4 月末時点）：
正会員 595 名（前年 715 名より 120 名減少）
2. 和文誌『東京女子医科大学雑誌』94 巻 1～6 号：
電子版 6 回、冊子版は合本号 1 回を発行。掲載 24 篇。投稿から初回採否結果通知まで平均 28.0 日、最終採否結果通知まで 36.2 日
3. 英文誌『Tokyo Women's Medical University Journal』Volume 8：
掲載 8 篇。Submission から first decision までの平均期間は 32.0 日、final decision までの平均期間は 105.9 日
4. 集会：
例会 2 回、総会 1 回、評議員会 1 回を開催
第 369 回例会〔2024 年 2 月〕：（第 1 部）研究奨励賞授与式を 2 月 22 日午後に、（第 2 部）研究奨励賞受賞者研究発表を 2 月 24 日～3 月 2 日のオンデマンド配信、（第 3 部）研修医症例報告 21 題を 2 月 24 日午後に Zoom にて開催
第 370 回例会〔2024 年 5 月 22 日〕：（第 1 部）令和 6 年度研究奨励賞授与式、（第 2 部）令和 5 年度研究奨励賞受賞者研究発表と記念講演をオンデマンド配信にて開催
記念講演は、「吉岡彌生先生の精神から学ぶ」杉崎那美子先生（1963（昭和 38）年本学卒業生、医療法人社団桐光会理事）、「時代を拓いた人―女性の視点・麻酔科医の視点から―」小森万希子先生（1983（昭和 58）年卒業生、足立医療センター特任教授）
第 90 回総会〔2024 年 9 月 28 日〕：総会は WEB 決議、公開シンポジウム「女子大教育の将来」は Zoom 配信にて開催
5. 記念楯：
学会主催 2 個、その他 11 個で利用された。来校時や講演の記念として活用されている。

6. 新名誉会員：
名誉教授の三谷昌平先生、また学会への功労として佐藤麻子先生、小森万希子先生、唐澤久美子先生、の4名に名誉会員の称号を贈る。
7. 新任幹事（2024年10月～2025年8月）：
当該期間中の該当なし
8. 新評議員：
2024年8月～2025年7月に准教授以上に就任した18名を新評議員として推薦し、評議員会で承認された。
- 医学部
吉永健太郎 准教授（血液内科学分野）
衛藤 薫 准教授（足立医療センター 小児科）
本田 淳 准教授（八千代医療センター 循環器内科）
野村 岳志 教授（集中治療科）
道本 智 准教授（足立医療センター 心臓血管外科）
東 隆 准教授（足立医療センター 心臓血管外科）
石黒 太一 准教授（八千代医療センター 脳神経外科）
西村 明浩 准教授（八千代医療センター 消化器外科）
水足 邦雄 准教授（足立医療センター 耳鼻咽喉科）＊
古川 博史 准教授（足立医療センター 心臓血管外科）＊
平野 一 准教授（血液浄化療法科）＊
橋本 浩次 准教授（人体病理学・病態神経科学分野）＊
大門 雅夫 准教授（循環器内科学分野）＊
永井多賀子 准教授（リハビリテーション学）＊
河尻 澄宏 准教授（東洋医学研究所）＊
森田 賢 准教授（画像診断・核医学科）
鈴木 一史 准教授（画像診断・核医学科）
- 看護学部
柏崎 郁子 准教授（看護学部）＊ 〔就任順 ＊新任〕

【議題2】会計報告：2024年度決算報告

2024年度収支決算：収入

会費収入は、新規入会者・継続会員ともに予想を下回り、予算額3,500,000円に対し、決算額3,137,000円で、予算比363,000円の減少。雑誌刊行収入は、投稿・掲載論文数の減少による著者負担金および広告収入の減収により、予算額1,320,000円に対し、決算額722,210円で、予算比597,790円の減少。盾売却収入は、予想以上の需要があり、予算額160,000円に対し、決算額372,705円で、予算比212,705円の増加。雑収入は、預金利率の上昇による利息収入の増加があり、予算額1,000円に対し、決算額18,247円で、予算比17,247円の増加となった。

収入合計は、予算額4,981,000円に対し、決算額4,250,162円で、予算比730,838円の減少。

2024年度収支決算：支出

集会費は、予算額853,000円に対し、決算額863,196円で、予算比10,196円の増加。盾購入数増加による盾費の増加があったものの、学会開催準備費の抑制により、全体ではほぼ予算通り。出版費は、掲載論文数減少による英文校正費・OJ作成費の減少および予定していた業務委託費の次年度持ち越しにより、予算額4,733,000円に対し、決算額2,635,176円で、予算比2,097,824円の減少。経常費は、学会サイト更新業務の内製化によるHP費減少および修繕費の支出なく、予算額505,000円に対し、決算額274,139円で、予算比230,861円の減少となった。

支出合計は、予算額6,091,000円に対し、決算額3,772,511円で、予算比2,318,489円の減少。

2024年度収支決算：収支差額と繰越金

収支差額1,110,000円の支出超過予算のところ、477,651円の黒字会計で、前期繰越金36,887,950円を加えた37,365,601円が次年度への繰越金となった。

2024年度収支決算：総括

2024年度は、会費および雑誌刊行収入の減少があった一方、支出の抑制と一部項目の収入増により、黒字

決算となった。引き続き、堅実な財務運営と学術活動の充実の両立に努める。
石黒直子・降矢芳子両監事の監査により、問題ないことが承認されている。

2024年度 東京女子医科大学学会 監査報告

2024年4月1日～2025年3月31日

(収入) <単位:円>

科 目	予算額	決算額	差額 (決算－予算)	備考
1. 会費収入	3,500,000	3,137,000	▲ 363,000	新規入会、継続会員ともに減少
2. 雑誌刊行収入	1,320,000	722,210	▲ 597,790	投稿・掲載論文数の減少
3. 盾売却収入	160,000	372,705	212,705	購入希望数増加
4. 雑収入	1,000	18,247	17,247	預金利率上昇
収入合計	4,981,000	4,250,162	▲ 730,838	

(支出) <単位:円>

科 目	予算額	決算額	差額 (決算－予算)	備考
1. 集会費	853,000	863,196	10,196	
2. 出版費	4,733,000	2,635,176	▲ 2,097,824	掲載論文数減少と持ち越し
3. 経常費	505,000	274,139	▲ 230,861	利用のなかった勘定あり
支出合計	6,091,000	3,772,511	▲ 2,318,489	

収支差額	▲ 1,110,000	477,651	－
前年度繰越金	36,887,950	36,887,950	－
次年度繰越金	35,777,950	37,365,601	1,587,651

(総括)
2024年度は、会費収入および雑誌刊行収入の減少により収入が減少しましたが、支出の抑制に努めた結果、黒字となりました。今後も持続可能な学会運営を念頭に置きながら、活動の活性化と発展に努めてまいります。

上記のとおり、2024年度の会計報告をいたします。

2025 年 7 月 29 日 野原 理子 (会計担当幹事)

監査の結果、上記の会計報告につき適切に処理されていることを報告いたします。

2025 年 8 月 4 日 石黒直子 (監事)

2025 年 8 月 14 日 降矢 芳子 (監事)

【議題3】会計報告：2025 年度予算案

2025 年度収支予算：収入

会費収入は、新規入会者数を控えめに予測し、2024 年度予算額 3,500,000 円に対し、300,000 円減額した 3,200,000 円とした。雑誌刊行収入は、英文誌の投稿料制度廃止・掲載論文数減の影響を見込み、2024 年度予算額 1,320,000 円に対し、203,000 円減額した 1,117,000 円とした。盾売却収入は、購入希望があり、2024 年度予算額 160,000 円に対し、60,000 円増額した 220,000 円とした。雑収入は、預金利率上昇を加味し、2024 年度予算額 1,000 円に対し、19,000 円増額した 20,000 円とした。
収入合計は、2024 年度予算額 4,981,000 円に対し、424,000 円の減額となる 4,557,000 円を計上。

2025 年度収支予算：支出

集会費は、ハイブリッド開催、広報の強化、特注楯作成等により、2024 年度予算額 853,000 円に対し、542,000 円増額した 1,395,000 円とした。出版費は、前年度からの持越しと英文誌強化施策により、2024 年度予算額 4,733,000 円に対し、1,262,000 円の増額となる 5,995,000 円とした。経常費は、引き続き内製化等で抑制に努め、2024 年度予算額 505,000 円に対し、105,000 円の減額となる 400,000 円とした。
支出合計は、2024 年度予算額 6,091,000 円に対し、1,699,000 円増額した 7,790,000 円を計上した。

2025 年度収支予算：収支差額と繰越金見込み

収入合計 4,557,000 円に対し、支出合計 7,790,000 円で、3,233,000 円の支出超過予算だが、前年度繰越金 37,365,601 円で補填可能であり、引き続き 34,132,601 円の繰越金を維持する見込み。

2025 年度収支予算：総括

2025 年度は、英文誌強化・学術集会の拡充といった戦略的な投資を予定しており、支出超過となる見込み。ただし、十分な繰越金を保有しており、持続可能な範囲での予算設計としている。

2025年度 東京女子医科大学学会 予算案				
2025年4月1日～2026年3月31日				
(収入)		<単位:円>		
科 目	前年度予算額	本年度予算額	増減 (本年－前年)	備考
1. 会費収入	3,500,000	3,200,000	▲ 300,000	新規入会者数を控えめに予測
2. 雑誌刊行収入	1,320,000	1,117,000	▲ 203,000	投稿料廃止と英文誌掲載見込み数減少
3. 盾売却収入	160,000	220,000	60,000	購入希望あり増額
4. 雑収入	1,000	20,000	19,000	預金利率上昇を反映し増額
収入合計	4,981,000	4,557,000	▲ 424,000	
(支出)		<単位:円>		
科 目	前年度予算額	本年度予算額	増減 (本年－前年)	備考
1. 集会費	853,000	1,395,000	542,000	ハイブリッド開催と特注楯作成により増額
2. 出版費	4,733,000	5,995,000	1,262,000	英文誌強化の一環で増額
3. 経常費	505,000	400,000	▲ 105,000	抑制に努め減額
支出合計	6,091,000	7,790,000	1,699,000	
収支差額	▲ 1,110,000	▲ 3,233,000	—	赤字(支出超過)は繰越金で補填可能
前年度繰越金	36,887,950	37,365,601	—	
次年度繰越金	35,777,950	34,132,601	▲ 1,645,349	164万円減少するが3,413万円を維持

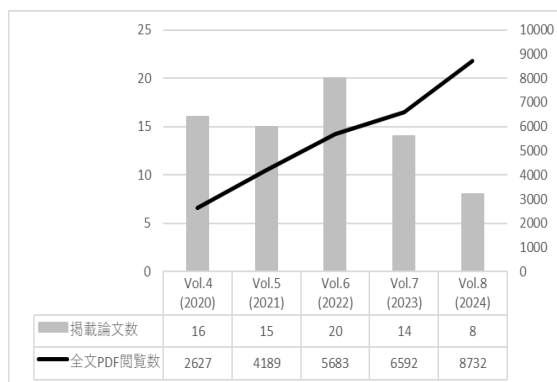
【報告 1】 集会担当幹事会からの報告

1. 第 91 回総会〔2025 年 9 月 27 日（土）〕：【資料 A】
公開シンポジウム「変貌する脳神経診療：最新治療と未来地図」を、イブリッド開催
2. 第 373 回例会〔2026 年 2 月 28 日（土）〕：【資料 B】
演題募集中。会場は彌生記念教育棟 3 階の講義室
3. 第 42 回吉岡彌生記念講演会〔2026 年 5 月 22 日（金）〕
吉岡彌生先生の精神から学ぶ 大澤眞木子先生（立教女学院理事長、昭和 47 年本学卒業生）
招聘講演 田中ひかる氏（歴史社会学者）

【報告 2】 編集担当幹事会から

1. 和文誌：第 96 巻掲載シリーズ
「医療における AI 技術の応用（仮）」を企画中
2. 和文誌：総会特集
第 91 回総会公開シンポジウム「変貌する脳神経診療：最新治療と未来地図」を掲載予定
3. 和文誌：活性化への試み
2025 年 6 月より非会員も投稿可能となった。会員へのインセンティブは今後の課題
4. 英文誌／和文誌の掲載論文数と全文 PDF 閲覧数の推移：
2024 年は、英文投稿論文は減少したが、PDF 閲覧数は増加。和文誌の投稿論文は増加傾向
2025 年は、英文誌の投稿論文数が前年を既に超過、掲載論文数増加見込み

〔英文誌の推移〕



〔和文誌の推移〕

